

2018年度第3四半期決算説明会(2019年2月6日開催)

主な質疑応答の内容(要旨)

※ 説明会開催日(2019年2月6日)時点の情報に基づく内容です

Q. 前年同期に比べて、売上、利益ともに増えていますが、この要因を具体的に教えてください。

また、通期見通しに対して、第3四半期決算の実績をどのように評価していますか？

A. パワードメインについては、原子力、ガスタービンのほか、航空エンジンも前年同期と比べて増収となりました。ガスタービンに関しては既受注案件の工事が順調に進んでいることに加えて、アフターサービスが比較的堅調に推移していることが増収に寄与しています。航空エンジンについては、開発フェーズから投資回収フェーズに入っており、アフターサービスを中心に売上が増加しています。

インダストリー&社会基盤ドメインについては、市況の低迷に苦しんでいた製鉄機械の受注が回復しつつあり、それに伴い売上も増える傾向にあります。また、M&Aにより世界シェア3位に浮上した物流機器においては、米国で堅調な販売を維持しています。

航空・防衛・宇宙ドメインの民間航空機Tier1事業においては、787向けの引き渡しは順調な一方、777シリーズでは777から777Xへの端境期にあるため、減収減益となっています。

利益面は、生産性の向上等により、どの部門も増益傾向にあり、フリーキャッシュフローも改善しています。特定の事業が極端に改善したわけではなく、おしなべて業績が改善している印象です。第3四半期決算の実績は、受注見通しの下方修正を行ったものの、売上、利益については、通期見通しに対して概ね計画通りの進捗であると評価しています。

Q. 第3四半期決算において、通期の受注見通しを3,000億円下方修正していますが、その内容について教えてください。

A. 通期の受注見通しに関しては、パワードメインで2,000億円、インダストリー&社会基盤ドメインで1,000億円下方修正しました。前者の2,000億円については、国内の石炭火力案件でキャンセルが発生したこと、海外の石炭火力案件において今年度中に受注を見込んでいたものが来年度にずれ込む可能性があることを踏まえて、下方修正したものです。

後者の1,000億円に関しても、海外の化学プラント案件の受注計上時期が来年度になる可能性が高いことから、見直しを見直したものです。

Q. 中国の景気減速等による、インダストリー&社会基盤ドメインの中量産品事業への影響はありますか？

- A. 中量産品は第3四半期まで非常に堅調に推移していますが、中国の自動車生産・販売が急速に落ち込んでおり、中国向けのターボチャージャの売上が昨年比べて減速がみられます。このような状況下、期首に策定したターボチャージャの通期見通しには若干届かない見通しですが、前年度並みの受注は確保できると見込んでいます。
- その他の製品については、中国の景気減速による目立った影響はありません。

以上